

# 産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 佐賀県  
 都道府県 佐賀県  
 対象地域 佐賀市、伊万里市、鹿島市、みやき町、白石町  
 対象品目 水田輪作体系（麦・水稲・タマネギ）、カンキツ



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

化学肥料の価格高騰などの影響を受けずに、持続可能な農業へと転換していくため、「環境に優しい栽培技術」として位置づけられる「堆肥を活用した窒素単肥栽培技術」を導入した営農体系へ移行している。また、「堆肥散布機」の活用による省力化技術が普及している。  
 本取組によって得られた成果に基づき、これまで限定的であった堆肥の利活用が広く展開され、産地全体へと普及している。家畜糞堆肥の施用により、「リン酸」および「カリ」が土壤中に蓄積されることで、化学肥料の使用量を削減した本施肥体系においても、慣行栽培と同等の生育および収量が確保されている。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		施肥 施肥							施肥 施肥	施肥		施肥 施肥	化学肥料のみの施肥 水田輪作体系（麦）
主な作業名			施肥 施肥 施肥 施肥 施肥 施肥 施肥										化学肥料のみの施肥 水田輪作体系（水稲）
主な作業名								施肥 施肥 施肥 施肥		施肥		施肥	化学肥料のみの施肥 水田輪作体系（タマネギ）
主な作業名			施肥 施肥				施肥 施肥 施肥					施肥 施肥 施肥	化学肥料のみの施肥 カンキツ
主な作業名							散布 散布						手作業での堆肥散布 水田輪作体系（麦）
主な作業名			散布 散布										手作業での堆肥散布 水田輪作体系（水稲）
主な作業名							散布 散布						手作業での堆肥散布 水田輪作体系（タマネギ）
主な作業名											散布 散布 散布		手作業での堆肥散布 カンキツ

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		施肥 施肥					施肥 施肥	施肥 施肥		施肥		施肥 施肥	堆肥施用による土づくり 水田輪作体系（麦）
主な作業名			施肥 施肥 施肥 施肥 施肥 施肥 施肥										堆肥施用による土づくり 水田輪作体系（水稲）
主な作業名							施肥 施肥 施肥 施肥	施肥 施肥		施肥		施肥	堆肥施用による土づくり 水田輪作体系（タマネギ）
主な作業名			施肥 施肥				施肥 施肥 施肥				施肥 施肥 施肥		堆肥施用による土づくり カンキツ
主な作業名							散布 散布						堆肥散布機械の使用 水田輪作体系（麦）
主な作業名			散布 散布										堆肥散布機械の使用 水田輪作体系（水稲）
主な作業名							散布 散布						堆肥散布機械の使用 水田輪作体系（タマネギ）
主な作業名											散布 散布 散布		堆肥散布機械の使用 カンキツ

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	17.7	▶ 18.7	水田輪作体系（麦・水稲・タマネギ）
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	17.7	▶ 18.7	水田輪作体系（麦・水稲・タマネギ）
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	17.7	▶ 18.7	水田輪作体系（麦・水稲・タマネギ）
省力化に資する技術の取組面積（ha）	17.7	▶ 18.7	水田輪作体系（麦・水稲・タマネギ）

(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	<b>2.9</b>	▶	<b>3.0</b>	カンキツ
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	<b>2.9</b>	▶	<b>3.0</b>	カンキツ
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	<b>2.9</b>	▶	<b>3.0</b>	カンキツ
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	<b>2.9</b>	▶	<b>3.0</b>	カンキツ

### 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

#### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料のみの施肥	▶ 堆肥施用による土づくり	化学肥料の使用量の削減
省力	手作業での堆肥散布	▶ 堆肥散布機械の使用	散布時間の短縮

#### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用量削減 (kg/10a)	<b>5.9</b>	▶ <b>2.2</b>	K成分量 水田輪作体系 (麦)
環境	化学肥料の使用量削減 (kg/10a)	<b>4.5</b>	▶ <b>3.0</b>	N成分量 水田輪作体系 (水稲)
環境	化学肥料の使用量削減 (kg/10a)	<b>13.6</b>	▶ <b>4.8</b>	K成分量 水田輪作体系 (タマネギ)
環境	化学肥料の使用量削減 (kg/10a)	<b>12.0</b>	▶ <b>3.6</b>	P成分量 カンキツ
省力	散布時間の短縮 (時間/10a)	<b>2.8</b>	▶ <b>0.4</b>	堆肥散布機械の使用 水田輪作体系 (麦・水稲・タマネギ)
省力	散布時間の短縮 (時間/10a)	<b>8.0</b>	▶ <b>6.0</b>	堆肥散布機械の使用 カンキツ

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する (有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

### グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

県HPに掲載する。現地機関において、現地指導の際に、マニュアルを活用する。

#### 関係者の役割

関係者名	佐賀県 (農業経営課、普及組織、農業技術防除センター)	佐賀県 (農業試験研究センター、果樹試験場、畜産試験場)	佐賀県堆肥利活用推進協議会	農業者
役割	当該技術の普及	当該技術の評価・改良	当該技術の広報 当該技術の普及推進	当該技術の導入